

## 式 辞

柔らかな日差しに春の訪れを感じる 今日の佳き日、ご来賓の皆様、保護者の皆様とともに、第73回卒業証書授与式を挙げていただけますことに、大きな喜びを感じております。

卒業証書を手にされた103名の皆さん、卒業おめでとうございます。人の一生にはいくつかの節目があります。今日の卒業式は、3年間を振り返り、これからの出発に想いと覚悟を新たにする時です。

卒業生のみなさんは、学校の顔として様々な場面で活躍しました。1, 2年生の頃は コロナウイルス感染拡大により、様々な制約を余儀なくされた中での生活でした。それでも皆さんは、ピンチをチャンスに代え、できることを工夫して、明るく生活してきました。

3年生の昇降口に掲げてある「凡事徹底」。本校の合い言葉であり、卒業生は特に「当たり前前」のことを当たり前のように行う」ことを学年の方針としてきました。このことを実践するためには、真摯に自分を見つめる姿勢と他者への思いやりの心をもとに、自ら活動することが大切だと思います。学校行事や委員会活動、中体連、その他 多くの活動において、みなさんが記した足跡は、小名浜第二中学校の伝統を築く 大きな一歩になりました。

卒業生の皆さんで 特筆すべきことは、とても素直な生徒たちだということです。何事においても、まず「素直に受け入れる」という姿勢がなければ集団での行動は成立しません。日々の生活において、話を聞くときのまっすぐな目はきらきらと輝いていました。

2学期半ばからは、希望する進路の実現に向けて、学習に集中するクラスを創り上げてきました。「受験は団体戦」とも言われますが、それぞれが抱えている不安感を感じ取り、温かい雰囲気を変えていくことによって、共に支え合い、乗り越える力としてきました。

もちろん、これまでには、様々なぶつかり合いや行き違いがあったと思います。その度ごとに、話し合い、考え、気持ちを整理して、今の仲間、クラスをつくってきたはずです。

これから皆さんは、おもしろいこと、うれしいこと、また、辛いことや悔しいことなど、様々な体験をすることでしょう。これからの10年、最も感性が豊かな時に、たくさんの人に出会い、多くの感動を味わってください。そして、「自分はどのように考えるのか、何をするのか」と問い続けてください。みなさんにはできることが、たくさんあります。そして、あなたにしかできないことも あるはずです。

東日本大震災から13年、多くの人たちが懸命に復興に向けて取り組んできました。また、今年1月の能登半島地震では、被災した方々へのケアと地域の復興に力を尽くしている最中です。これらのことは風化させてはいけないことであり、このような時だからこそ、現実を冷静に見つめることとともに、様々な労苦を希望に変え、未来の世の中を築いてゆく志が必要になると思います。これからの世の中をつくり支えるのは、皆さんです。その時の最強のアイテムは、明るく元気な笑顔と温かい思いやり、そして豊かな創造力です。

今日は、自分を発見する長い旅の第一歩です。この小名浜第二中学校で 仲間や先生方と出会い、語り合い、元気に成長した 皆さんの巣立ちを 心から祝福いたします。

結びに、保護者の皆様 並びに 地域の皆様の多大なるご支援に感謝申し上げますとともに、卒業生の未来が輝かしいものになることを心から願い、式辞といたします。

令和6年3月13日

いわき市立小名浜第二中学校校長

追記 相田みつをさんの「道」という詩を紹介します。式辞に取り入れたかったのですが、詩が深く、私の力ではうまくいきそうにないので、読んでみて、何かを感じていただければと思います。

## 道

長い人生にはなあ  
どんなに避けようとしても  
どうしても通らなければならぬ道  
というものがあるんだな  
そんなときは  
その道をだまって歩くことだな  
愚痴や弱音を吐かないでな  
黙って歩くんだよ  
ただ黙って  
涙なんか見せちゃだめだぜ  
そしてなあ  
その時なんだよ  
人間としてのいのちの  
根が深くなるのは